

送別の言葉

コロナにより、先の見えない日々の中にも春が訪れました。74 回生の皆様、ご卒業おめでとうございます。この 1 年、環境の変化に戸惑いながらも努力し続ける 3 年生を、間近で見てきました。その姿に私たちは沢山の刺激を受けました。

私は全校委員として、代表委員会に参加しましたが、その時に感じた驚きは今でも忘れられません。私は、クラスの話し合いで何度か司会を経験しましたが、ただ進めることだけを考えて、堅苦しい雰囲気を作ってしまうことばかりでした。しかし、代表委員会では話し合いの内容を深めるため、1 人 1 人の意見を上手く活用し、発言しやすい雰囲気を作り出していました。参加している 3 年生は皆、周りの意見にうなずきながら、積極的に発言をして、活発で内容の濃い話し合いになりました。司会の方達が 1 人 1 人の意見を大切にし、より良い意見交換を目指して意欲的に進めていたからだと思います。私は話し合いに参加しているだけで、周りの人たちの多様な個性を知り、自分自身が高められていくような充実感を得ることができました。

学びの集大成である年間研究。発表の場で 3 年生がおっしゃっていた「頭を柔らかくすること」「工夫すること」という言葉が印象に残りました。今年は限られた空間の中で過ごすことも多く、だからこそ、普段なら見逃してしまうような小さな気付きを大切に、こだわりぬいた作品になったのだと思います。年間研究の深まりは全て自分次第。自分に打ち勝ち、1 年間続けてきたからこそ「学びの本質に触れるチャンス」「将来に繋がる一歩」と胸を張って言えるのでしょう。私は自分を信じて自ら努力することの大切さを知ることができました。

今年の十月祭は例年通りに出来ず、私たちは悲しみや不安の中にいました。それを 1 番感じているはずの 3 年生は、誰よりも早く新しい十月祭の形を考え行動していました。厳しい状況の中でも出来ることを探し出し、諦めずに進み続けていたのです。中学校 3 年間で沢山の辛いこと悲しいことと闘ってきたからこそ養われた力があるのだと感じました。『置かれた場所で咲きなさい』という本がありますが、今だからできる形でクラブや十月祭を実現させた 3 年生の存在に私達下級生は沢山救われました。過去にこだわらず、現実を直視して一歩を踏み出すことができました。皆様は、周りの人たちと手を取り合うことで大きな壁を乗り越えてきたのでしょう。私はそれこそが三綱領の 1 つである共同奉仕の精神だと思います。

私達はもうすぐ最上級生になりますが仲間を信じ、勇気を持って切り開いていきたいと思っています。皆様は何年たっても私達の憧れであり、目標です。74 回生の皆様が築いた新しい伝統を受け継ぎ、発展させていくことをお約束します。その力を皆様方は私達に下さったのだと実感しています。

今まで共に過ごせたことを誇りに思います。どうぞ皆様らしい姿で前に進んでいらして下さい。本当にありがとうございました。

2021 年 3 月 18 日 在校生代表